

# 仙台稲作情報 2022 (総括号)

宮城県仙台農産良普及センター TEL: 022-275-8410 FAX: 022-275-0296  
 HP: <https://www.pref.miyagi.jp/site/sdnk/> E-mail: sdnkt@pref.miyagi.lg.jp

## 1 令和4年産水稲生育期間の気象経過と水稲生育への影響

(1) 水稲生育期間の気象経過 (仙台アメダス) ※赤字: プラス要因, 青字: マイナス要因 を示す。

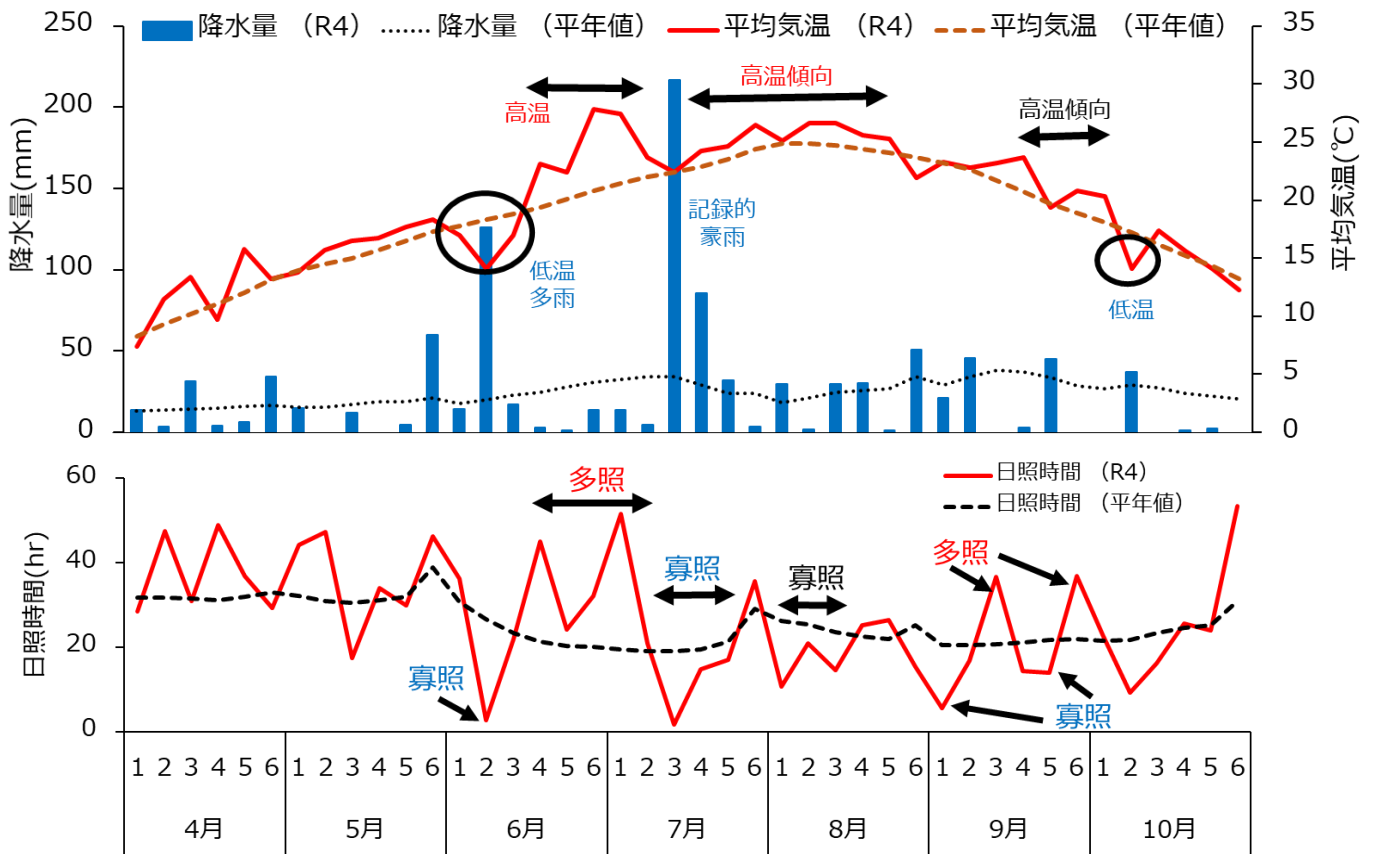


図1.気象経過

## (2) 水稲生育への影響

### ①出穂前

- ・ 6月第2, 3半旬の**低温寡照** → **生育停滞** (特に茎数(穂数)への影響あり)
- ・ 6月第4半旬～7月第2半旬の**高温多照** → **生育回復**, 肥料窒素の溶出が早まる
- 幼穂形成期以降の**葉色低下**
- **一穂粒数の減少**
- ※ **千粒重が重くなり**, かつ程が細長いほ場で**倒伏が目立った**。
- **生育の抑制**
- ・ 7月中旬の**記録的豪雨・寡照**

### ②出穂後

- ・ 8月の**高温+寡照傾向** → 粒数が少なかったため, 品質への影響少
- ・ 8月第6半旬～9月第2半旬の**寡照** → やや**登熟の遅れ**

## 2 令和4年産水稻の作柄・品質

### (1) 作柄 (東北農政局 令和4年12月9日公表)

- ・宮城県の10a当たり収量は537kg, 作況指数は100の「平年並み」となった。
- ・当普及センター管内を含む「中部」の10a当たり収量は527kg, 作況指数は100の「平年並み」となった。  
※収量のふるい目は1.7mm, 作況指数のふるい目は1.9mm。

### (2) 品質 (東北農政局 令和4年11月30日公表)

- ・宮城県の令和4年10月31日現在の水稻うるち玄米の1等米比率は96.2%となり, 前年(最終)の93.1%を上回った。
- ・2等以下に格付けされた主な理由は, 「形質」61.2%, 「着色粒」25.7%, 「被害粒」7.9%だった。  
※「形質」とは, 皮部の厚薄, 充実度, 質の硬軟, 粒ぞろい, 粒形, 光沢並びに肌ずれ, 心白及び腹白の程度をいう。  
※1等米比率96.2%は, 過去10年で最も高い。

## 3 管内の生育調査ほの生育状況等

### (1) 生育ステージ

表1 仙台管内及び県全体における田植・出穂・刈取状況

	仙台管内			県全体		
	田植	出穂	刈取	田植	出穂	刈取
始期 5%	5月3日 (平年並)	7月29日 (平年並)	9月19日 (1日早い)	5月3日 (1日早い)	7月29日 (1日早い)	9月18日 (1日早い)
盛期 50%	5月11日 (1日遅い)	8月3日 (1日遅い)	10月2日 (1日遅い)	5月10日 (1日早い)	8月3日 (1日遅い)	10月1日 (1日遅い)
終期 95%	5月23日 (1日遅い)	8月9日 (1日遅い)	10月15日 (平年並)	5月22日 (平年並)	8月12日 (2日遅い)	10月15日 (2日遅い)

※平年は, 直近5か年の平均値。

田植盛期は, 平年より1日遅く, 6月第2, 3半旬の低温寡照による生育停滞もあり, 出穂期及び刈取盛期は1日遅くなりました。

表2 調査ほにおける生育ステージ

品種	ほ場 (地帯区分)	移植日 (平年差)	幼穂形成期 (平年差)	減数分裂期 (平年差)	出穂期 (平年差)	成熟期 (平年差)
ひとめぼれ	仙台市宮城野区岡田 (仙台湾沿岸)	5月15日 (平年並)	7月10日 (3日遅い)	7月22日 (3日遅い)	8月7日 (4日遅い)	9月20日 (5日遅い)
	大郷町鷺崎 (北部平坦)	5月16日 (1日早い)	7月8日 (1日早い)	7月26日 (5日遅い)	8月8日 (5日遅い)	9月21日 (6日遅い)
	仙台市泉区福岡 (西部丘陵)	5月11日 (2日早い)	7月3日 (平年並)	7月16日 (2日遅い)	7月26日 (4日早い)	9月10日 (1日遅い)
ササニシキ	大和町鶴巣 (北部平坦)	5月12日 (4日遅い)	7月8日 (2日早い)	7月17日 (5日早い)	8月3日 (3日早い)	9月16日 (2日遅い)
	仙台市若林区長喜城 (仙台湾沿岸)	5月7日 (1日早い)	7月5日 (2日早い)	7月16日 (2日早い)	7月31日 (2日早い)	9月13日 (2日遅い)

※平年は, 直近3か年の平均値。ただし, 大和町鶴巣「ササニシキ」は, 前年(R3)の調査を実施していないため, 平成30年から令和2年までの3か年平均。

6月第2, 3半旬の低温寡照による生育遅延と, 7月中旬の豪雨寡照, 9月の寡照のため, 特に「ひとめぼれ」で減数分裂期以降の生育ステージは, 平年より遅い傾向となりました。「ササニシキ」は, 出穂期までは平年より早まりましたが, 9月の寡照と倒伏による受光態勢の悪化のため, 成熟期は2日遅くなりました。

## (2) 生育状況

- 草丈・稈長 6月第2, 3半旬の低温寡照のため, 6/10, 20は前年・平年より低く推移しましたが, 6月第4半旬～7月第2半旬の高温多照により, 7/1以降は概ね前年・平年並で推移しました。
- 茎数・穂数 6月第2, 3半旬の低温寡照のため, 6/10, 20は前年・平年より少なく推移し, 特に「ササニシキ」で顕著でした。6月第4半旬～7月第2半旬の高温多照により, 「ひとめぼれ」では回復し, 7/1以降は概ね前年・平年並で推移しましたが(目安並), 「ササニシキ」では変わらず低く推移しました(目安よりも少ない)。
- 葉色 「ひとめぼれ」では6/20～7/1で平年より高く推移しましたが, 6月第4半旬～7月第2半旬の高温で窒素分が早く溶出したため, 7/10以降は目安及び前年・平年より低く推移しました(表3)。葉色の低下が, 穂数及び一穂粒数減少の一因と考えられました。「ササニシキ」では, 6/20以降は平年並で推移しました(概ね目安並～目安より高い)。

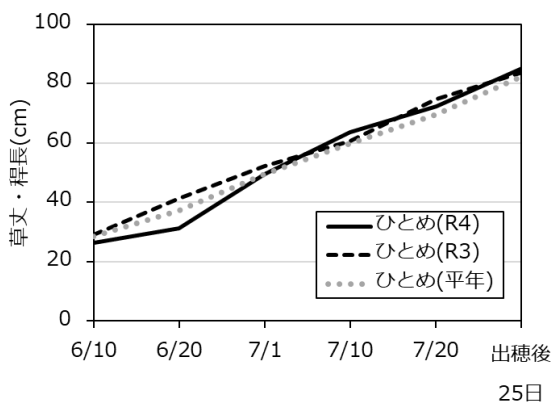


図2. 草丈・稈長の推移 (ひとめぼれ)

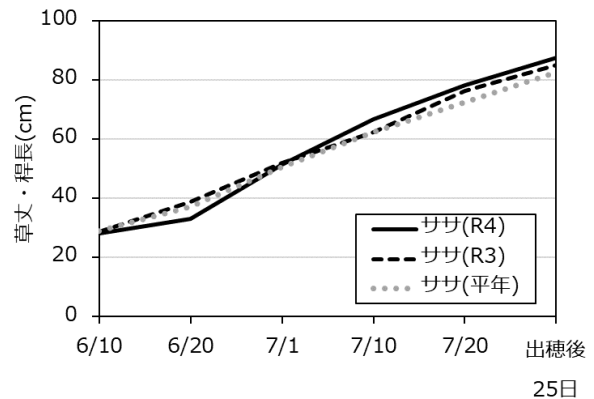


図3. 草丈・稈長の推移 (ササニシキ)

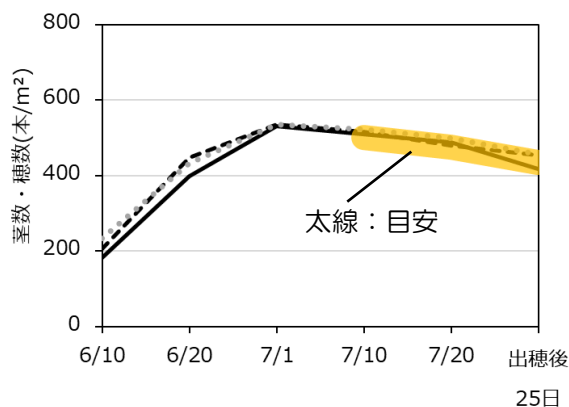


図4. 茎数・穂数の推移 (ひとめぼれ)

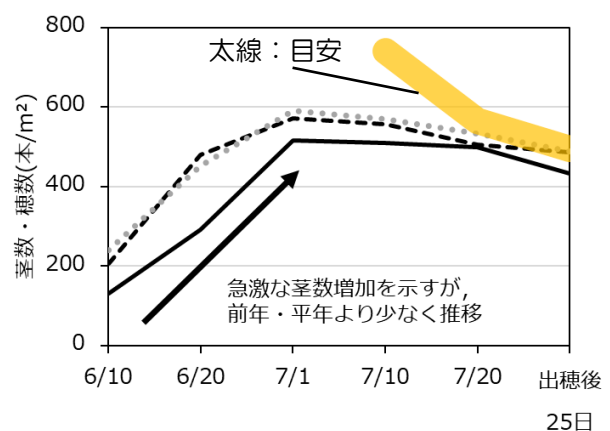


図5. 茎数・穂数の推移 (ササニシキ)

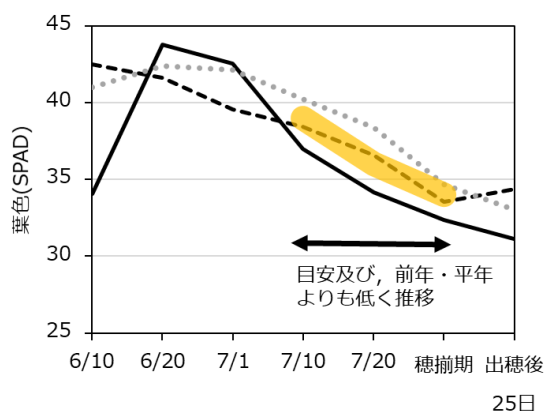


図 6. 葉色の推移（ひとめぼれ）

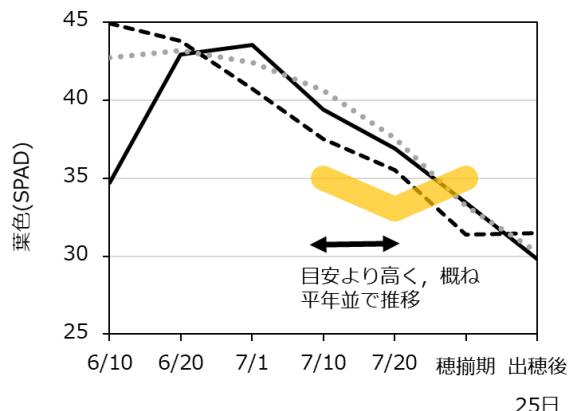


図 7. 葉色の推移（ササニシキ）

### (3) 収量構成要素

- 籾数 「ひとめぼれ」では穂数及び一穂籾数が平年より少なくなったことから、籾数は平年比 87%となり、目安よりも少なくなりました（適正籾数：280～300 百粒/m<sup>2</sup>）。一方「ササニシキ」では穂数が平年比 93%となりましたが、一穂籾数が平年比 107%となったことから、籾数は平年並だがやや過剰となりました（適正籾数：280～300 百粒/m<sup>2</sup>）。
- 登熟歩合 「ひとめぼれ」では、幼穂形成期以降の葉色が低かったことから、平年差-3.4 となりました。「ササニシキ」では、籾数が多く平年差-7.1 となりました。
- 玄米千粒重 「ひとめぼれ」では平年差 1.5g、「ササニシキ」では平年差 1.6g の増加が見られ、粒が充実していました。
- 精玄米重 「ひとめぼれ」では、玄米千粒重が増加したものの、籾数の減少により精玄米重は平年比 93%となりました。「ササニシキ」では、玄米千粒重が増加したものの、登熟歩合の低下により精玄米重は平年比 95%となりました。

表 3 収量及び収量構成要素（ふるい目 1.9mm）

品種	ほ場 (地帯区分)	栽植密度 (株/m <sup>2</sup> )	区分	精玄米重 (kg/10a)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	一穂籾数 (粒)	籾数 (百粒/m <sup>2</sup> )	登熟歩合 (%)	玄米千粒重 (g)
ひとめぼれ	仙台市宮城野区岡田 (仙台湾沿岸)	14.9	本年	546	352	82.0	289	80.9	23.4
			平年比・差	102%	93%	108%	101%	-6.4	1.1
	大郷町鶉崎 (北部平坦)	18.3	本年	516	429	59.1	254	86.6	23.5
			平年比・差	88%	88%	84%	74%	4.0	2.0
	仙台市泉区福岡 (西部丘陵)	15.9	本年	474	472	55.7	263	79.3	22.8
			平年比・差	89%	106%	83%	88%	-7.8	1.4
管内平均		-	本年	512	418	66	268	82	23
			平年比・差	93%	95%	92%	87%	-3.4	1.5
ササニシキ	大和町鶴巣 (北部平坦)	16.1	本年	613	409	87.1	357	76.5	22.5
			平年比・差	115%	77%	119%	91%	10.8	1.9
	仙台市若林区長喜城 (仙台湾沿岸)	13.5	本年	523	451	86.6	449	58.5	22.3
			平年比・差	92%	103%	97%	115%	-10.2	1.4
管内平均		-	本年	523	451	86.6	390	60.1	22.3
			平年比・差	95%	93%	107%	100%	-7.1	1.6

※平年は、直近3か年の平均値。

#### (4) 玄米品質

整粒歩合は、「ひとめぼれ」が70.8%、「ササニシキ」が57.2%と平年を下回りました。これは、その他未熟粒（充実不足など）と、「ササニシキ」では胴割粒が増加したためであると考えられます。

表4 玄米品質

品種	ほ場 (地帯区分)	区分	整粒 (%)	胴割粒 (%)	白未熟粒 (%)	青未熟粒 (%)	その他 未熟粒 (%)	着色粒 (%)	死米粒 (%)	被害粒 (%)	タンパク質 含有率 (%)	
ひとめぼれ	仙台市宮城野区岡田 (仙台湾沿岸)	本年	70.4	0.0	3.0	4.5	21.6	0.1	0.1	0.2	6.4	
		平年差	(9)	0.0	-2.9	3.7	9.6	0.1	-0.7	-0.6	-1.1	
	大郷町鷗崎 (北部平坦)	本年	74.6	0.0	1.5	6.1	17.3	0.2	0.0	0.3	6.7	
		平年差	-1.5	-0.3	-6.3	4.0	6.1	0.2	-1.3	-1.3	0.0	
	仙台市泉区福岡 (西部丘陵)	本年	67.4	6.4	1.5	2.9	20.6	0.1	0.0	1.0	6.2	
		平年差	-6.2	2.9	-4.4	0.6	9.4	0.1	-0.5	-2.0	-0.6	
管内平均		本年	70.8	2.1	2.0	4.5	19.8	0.2	0.0	0.5	6.4	
		平年差	-5.7	0.9	-4.5	2.8	8.3	0.1	-0.8	0.5	0.0	
ササニシキ	大和町鶴巣 (北部平坦)	本年	55.4	18.7	5.8	2.8	15.1	0.2	0.6	0.8	5.8	
		平年差	-19.6	18.5	-3.3	1.0	7.2	0.2	-0.6	-2.6	-0.9	
	仙台市若林区長喜城 (仙台湾沿岸)	本年	59.1	14.3	7.0	1.1	16.4	0.0	0.8	0.5	6.0	
		平年差	-6.3	8.1	-5.2	0.2	6.5	0.0	-2.0	-2.0	-0.1	
	管内平均		本年	57.2	16.5	6.4	1.9	15.8	0.1	0.7	0.7	5.9
			平年差	-13.0	13.3	-4.2	0.6	6.9	0.1	-1.3	-2.3	-0.5

### 4 「だて正夢」現地栽培技術普及展示ほの調査結果

#### (1) 生育ステージ

大郷町のほ場では、移植が前年よりも5日遅く、加えて6月第2～3半旬の低温寡照等により、幼穂形成期・減数分裂期・出穂期・成熟期のいずれも平年と比べて遅くなりました。

仙台市のほ場では、大郷町同様の天候でしたが、移植が5/9と早かったことから生育ステージが大郷町ほ場と比べるといずれの項目でも早くなりました。

表5 生育ステージ

ほ場 (地帯区分)	移植日 (平年差)	幼穂形成期 (平年差)	減数分裂期 (平年差)	出穂期 (平年差)	成熟期 (平年差)
大郷町土橋 (北部平坦)	5/20 (5日遅い)	7/18 (3日遅い)	7/26 (1日遅い)	8/13 (3日遅い)	9/30 (6日遅い)
仙台市若林区荒井 (仙台湾沿岸)	5/9	7/9	7/17	7/31	9/16

※※平年は、直近3か年の平均値。

※仙台市ほ場は今年が調査1年目であるため、前年値及び前年差なし。

#### (2) 生育の状況

○草丈・稈長：概ね順調でした。

○莖数・穂数：栽培期間を通して、目安より少なく推移しました。

○葉色：生育前半は6/10を除き目安より低く推移しましたが、穂揃期では目安以上となり、葉色が維持されていました。

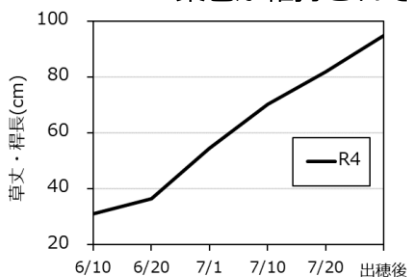


図8.草丈・稈長の推移 25日

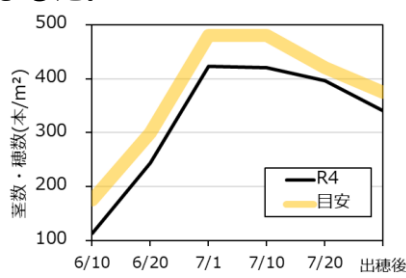


図9.莖数・穂数の推移 25日

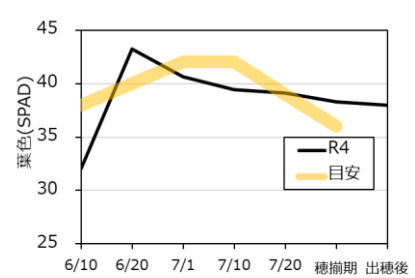


図10.葉色の推移 25日

### (3) 収量構成要素

6月第2, 3半旬の低温寡照によって穂数が目標値に比べて低くなりました。6月第4半旬～7月第2半旬の高温多照により, 一穂粒数が増えて目標値のおよそ128%の値となりました。m<sup>2</sup>あたり粒数は多いものの, 登熟歩合が低いことから精玄米重が少なくなりました。

表6 収量及び収量構成要素 (ふるい目1.9mm)

ほ場 (地帯区分)	栽植密度 (株/m <sup>2</sup> )	区分	精玄米重 (kg/10a)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	一穂粒数 (粒)	粒数 (百粒/m <sup>2</sup> )	登熟歩合 (%)	玄米千粒重 (g)
大郷町土橋 (北部平坦)	19.6	本年	500	320	113	362	65.0	20.0
		平年比・差	93%	100%	112%	113%	-11	-1.6
仙台市若林区荒井 (仙台湾沿岸)	17.4	本年	552	362	117	423	62.2	21.0
		平年比・差	—	—	—	—	—	—
管内平均	—	本年	526	341	115	393	63.6	20.5
		平年比・差	—	—	—	—	—	—
収量構成要素の目標			540	350~400	85~95	300~340	75~85	21~21.5

## 5 「金のいぶき」展示ほの調査結果

### (1) 生育ステージ

移植時期は5/18(移植時期目安5月上旬~中旬)で, 6月6月第2~3半旬の低温寡照があったものの, 生育ステージに大きな遅れは特に見られず, 概ね目安並に推移しました。

表7 生育ステージ

ほ場 (地帯区分)	移植日	幼穂形成期	減数分裂期	出穂期	成熟期
仙台市若林区荒井 (仙台湾沿岸)	5月18日	7月18日	7月27日	8月11日	9月30日
目安	5月上~中旬	7/15頃	7/25頃	8/10頃	10/1~5頃

※今年が調査1年目であるため, 前年値はない。

### (2) 生育の状況

- 草丈・稈長: 概ね順調に生育しました。
- 莖数・穂数: 栽植密度が少ないことに加えて, 6月第2, 3半旬の低温寡照の影響により, 莖数・穂数は目安より低く推移しました。
- 葉色: 6月20日以降, 目安並~高い値で推移しました。

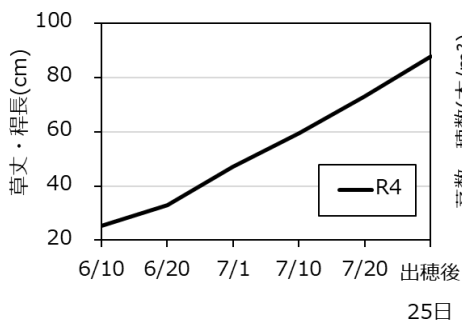


図11. 草丈・稈長の推移

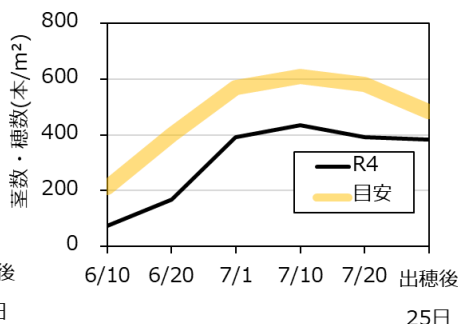


図12. 莖数・穂数の推移

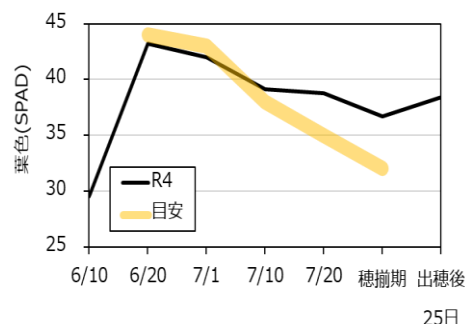


図13. 葉色の推移

### (3) 収量構成要素

6月第2, 3半旬の低温寡照の影響もあり生育初期分けつが増えず, m<sup>2</sup>当たり穂数が収量構成要素の目標値に比べて少なくなりましたが, 一穂粒数・m<sup>2</sup>当たり粒数・登熟歩合・千粒重は概ね目標値となりました。精玄米重は497kg/10a となりました。

表8 収量及び収量構成要素 (ふるい目 1.9mm)

ほ場 (地帯区分)	栽植密度 (株/m <sup>2</sup> )	区分	精玄米重 (kg/10a)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	一穂粒数 (粒)	粒数 (百粒/m <sup>2</sup> )	登熟歩合 (%)	玄米千粒重 (g)
仙台市若林区荒井 (仙台湾沿岸)	16.2	本年	497	385	77	295	70.8	23.8
		平年比・差	—	—	—	—	—	—
収量構成要素の目標			510~540	460~510	60~68	300~330	70~75	22.4~23.0

## 6 水稻直播普及展示ほ(乾田, ササニシキ)の調査結果

### (1) 生育ステージ

7月中旬の日照不足等の影響により出穂期は8月7日と前年より6日遅くなりました。出穂期以降, 日照不足で経過したもののm<sup>2</sup>当たり粒数が少なかったため登熟が進み, 成熟期は9月16日と前年並みとなりました。

表9 生育ステージ

ほ場 (地帯区分)	播種日 (前年差)	幼穂形成期 (前年差)	減数分裂期 (前年差)	出穂期 (前年差)	成熟期 (前年差)
仙台市若林区荒井 (仙台湾沿岸)	4/11 (+1)	7/15 (±0)	7/24 (+2)	8/7 (+6)	9/16 (-1)

### (2) 生育の状況

- 草丈・稈長：6月第2, 3半旬の低温寡照により一時的に生育が抑制されましたが, 以降は回復し順調でした。
- 莖数・穂数：出芽は順調で, m<sup>2</sup>当たり苗立数は142本/m<sup>2</sup>となり, 目標の100本/m<sup>2</sup>を上回りました。6月第2, 3半旬の低温寡照により分けつの発生が抑制されましたが, 以降は高温多照となり順調に増加しました。
- 葉色：6月4半旬以降は高温で経過したため肥料の溶出が早まったと推測され, 幼穂形成期及び減数分裂期の葉色は, ササニシキの目標値の下限で推移しました。

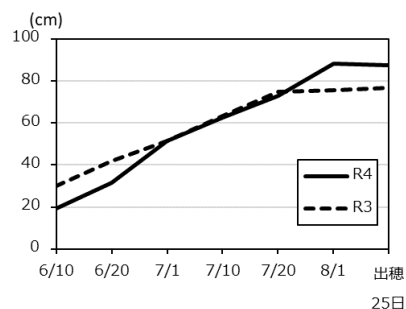


図14.草丈・稈長の推移

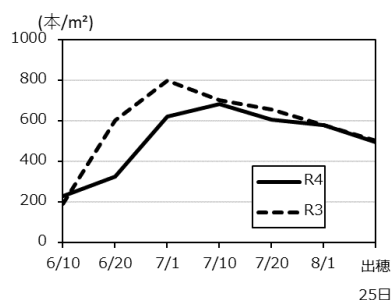


図15.莖数・穂数の推移

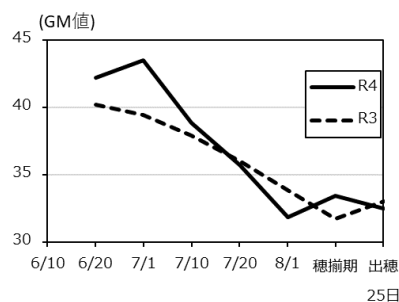


図16.葉色の推移

### (3) 収量構成要素

穂数が456本/m<sup>2</sup>と前年より少なかったため, m<sup>2</sup>当たり粒数は331百粒と前年の72%となりました。一方, 千粒重は23.2gと重くなり, 精玄米重は564kg/10a となりました。



表 10 収量・収量構成要素（ふるい目 1.9mm）

ほ場 (地帯区分)	収量 (kg/10a)		穂数 (本/m <sup>2</sup> )		一穂粒数 (粒)		籾数 (百粒/m <sup>2</sup> )		登熟歩合 (%)		千粒重 (g)	
	本年	前年 比%	本年	前年 比%	本年	前年 比%	本年	前年 比%	本年	前年 差	本年	前年 差
仙台市若林区荒井 (仙田湾沿岸)	564	87.9	456	90.5	72.6	79.8	331	72.1	73.0	+8.2	23.2	+1.6

## 7 水稲主要病害虫の発生状況（病害虫防除所巡回調査より抜粋して掲載）

病害虫	発生量	発生要因
葉いもち	平年並	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 7月第2半旬に県全体で感染好適条件が出現し、7月第3半旬に全般発生期を迎えた。全般発生期後も県全体で感染好適条件が出現したため、7月第6半旬に発生最盛期を迎えた。</li> <li>・ 7月下旬は平均気温が平年を上回り、降雨が続かなかつたため、上位葉の進展は緩慢に推移したと推測される。</li> </ul>
穂いもち	やや少ない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 葉いもちの上位葉での発生が少なく、出穂後は概ね気温が高く推移したため、8月第6半旬の発生最盛期後も病勢の進展は緩やかに推移した。</li> </ul>
紋枯病	やや少ない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前年の発生量が平年より少なかったことから伝染源量は少なかった。</li> <li>・ 6月中旬～7月上旬は高温で推移したが、降水量は少なく、初発が平年より遅くなった。7月下旬は高温傾向で、降水量は平年並～やや多い傾向だったため、水平進展は助長された。</li> <li>・ 8月上旬～中旬は概ね気温が高く降雨が断続的だったが、8月下旬は気温が低い傾向となり、垂直進展は緩慢だった。</li> </ul>
斑点米カメムシ類	平年並 (水田周辺) やや少ない (水田)  ※斑点米の発生量は「やや少ない」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 雑草地や畦畔など水田周辺における第一世代（籾を加害）の発生量は平年並であったが、8月の断続的な降雨により、本田への侵入は抑制された。</li> <li>・ 調査ほ場における畦畔の草刈り実施率は平年よりも高く、イヌホタルイが残草した水田の割合は平年より低かったことから、出穂期以降の発生は平年より少なく、斑点米の発生は平年よりやや少なかった。</li> <li>・ 割れ籾率が平年を大きく下回り、斑点米被害が抑えられた要因になった。</li> </ul>
白葉枯病・黄化萎縮病	やや多い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ それぞれ2地点で発生が確認された（各関係機関においても発生の報告あり）。</li> <li>・ 令和4年7月15日から16日にかけての記録的な大雨による浸冠水のため感染・発病が助長された。</li> </ul> <p>※直近10年の発生確認はない（9月上旬巡回調査時）</p>

## 8 令和5年産の作付けに向けて

高品質の良食味米の安定生産のために、気象変動に対応しうる栽培管理の励行に努めましょう。

### (1) 適正籾数及び穂揃期の適正葉色の確保

#### ○適正籾数

- ・ 収量・品質の安定性を確保するため、m<sup>2</sup>当たり籾数 30,000 粒前後を目標とします。
  - ・ 基肥窒素 1kg/10a 増肥 ⇒ 約 1,500 粒/m<sup>2</sup>の籾数増加
  - ・ 幼穂形成期の追肥 1kg/10a ⇒ 1,500～2,000 粒/m<sup>2</sup>の籾数増加
- 効果が期待できます！
- ※ほ場及び水稲生育にあった施肥・追肥を実施しましょう。



### ○適正葉色

- ・近年、出穂以降の高温傾向により、肥料の溶出が早まり、生育後半で肥料切れして葉色が淡くなっているほ場が散見されます。また、籾数過剰に加え穂揃期における葉色低下により、高温時の白未熟粒の発生助長や、くず米が増加する可能性が高くなります。
  - ・反対に、適正籾数であっても、穂揃期の葉色が濃すぎると玄米タンパク含有量が高まり、食味低下のリスクが大きくなります。
- 生育に応じた適期（主に幼穂形成期・減数分裂期）・適量の追肥が重要です。

表 11 「ひとめぼれ」の適正籾数及び品質を維持するための生育目標値

	分けつ最盛期	最高分けつ期前	幼穂形成期	減数分裂期	穂揃期	出穂後 25日
草丈・稈長 (cm)	32~34	45~48	56~59	66~69	-	82~85 (稈長)
莖数・穂数 (本/m <sup>2</sup> )	310~360	460~520	470~530	450~500	-	410~460 (穂数)
葉緑素計値 (GM値)	41~44	40~42	38~40	35~37	33~35	33以下

## (2) 病害虫防除の徹底

### ○いもち病

- ・直接減収につながる穂いもちを防ぐために葉いもちの防除は重要です。  
→箱施用剤や水面施用剤による予防防除を必ず行い、発生が認められた場合には直ちに補完防除を行いましょ。穂いもち防除は薬剤による予防が重要です。
- ・粒剤の散布適期は出穂期が基準になるので、稲作情報等により確認して散布しましょ。

### ○斑点米カメムシ類

- ・毎年、斑点米カメムシ類による着色粒が原因で落等しています。  
→水田周辺の雑草地など発生源の草刈り、水田内や畦畔の雑草防除のほか、穂揃期とその7~10日後の2回を基本に薬剤防除を徹底しましょ。

### ○紋枯病

- ・発病初期～穂ばらみ期の防除には箱処理が有効です。
- ・防除体系に基づき穂ばらみ期の茎葉散布と組み合わせて防除を行いましょ。
- ・前年に多発した場合は、翌年も多発する可能性が高いので、確実に防除を行いましょ。
- ・環境保全米では、抗生物質剤による本田防除が有効です。

## (3) 雑草対策の徹底

### ○ほ場の整備

- ・均平不足による湛水時の田面露出、対象草種の処理適期を逃した散布など、ほ場整備や除草剤の使用法に問題がある事例が見受けられます。  
→丁寧な代掻き（荒代・本代の2回実施など）や畦畔補修を行い、適切な除草剤を適期に散布することを徹底しましょ！

### ○除草剤の適切な使用

- ・今年、残草が見られたほ場では、初期除草剤と初中期一発剤、初中期一発剤と中後期剤等を組合せた「体系除草」を行いましょ。
- ・水持ちの悪いほ場では、豆粒剤やフロアブルなどの水に溶けやすい剤型を用いると、田面水とともに有効成分が流亡するので、粒剤の使用を検討しましょ。
- ・除草剤は発生する雑草の種類によって効果が異なります。  
→発生又は残草した雑草に効果のある除草剤の選定など、不明な点については、当普及センターまでお問い合わせください。

○除草剤抵抗性雑草や難防除雑草への対策

- ・県内では多くの草種でスルホニルウレア系除草剤成分（S U）の抵抗性個体群が確認されています。  
→特定の除草剤の成分の連用を避けるとともに、従来型のS U抵抗性個体にも有効な新規阻害剤（白化成分など）が含まれる剤を選定して使用しましょう。

**（４）土づくりの実施**

○深耕

- ・深耕による根域拡大は、背白・基白粒、心白粒等を減少させ、整粒歩合を向上させます。  
目安：15cm 程度

○有機物や土づくり資材の施用

- ・肥料コスト上昇や気象変動に対応するため、土壌診断に基づく施肥や有機資源（堆肥、稲わら等）を適量施用することにより、適切な肥培管理を行いましょう。
- ・完熟堆肥の連用は、稲わらすき込みや化学肥料のみの場合よりも、白未熟粒の発生抑制に効果があります。転換田においては、有機物を長期間施用しないと有機物が消耗し、これに伴い、土壌の可給態窒素も大きく減少します。
- ・ケイ酸質肥料は、受光態勢の改善や光合成能力の向上、リン酸質肥料は、低温時の活着促進や分けつ促進の効果が期待できます。

○環境保全米

- ・化学肥料節減栽培方法の1つであり、良食味米生産にもつながります。
- ・施肥条件として、水稻への慣行施肥量（7kg/10a）のうち化学肥料施用量を5割以下（3.5kg/10a）に抑える必要があります。  
→堆肥や有機入り一発肥料を施用することで、化学肥料基肥追肥体系と同等の収量品質が得られます。

表 12 土壌タイプと土づくり肥料及び堆肥の施用目安

土壌タイプ	土づくり肥料		堆肥 (t/10a)
	ケイ酸質 (kg/10a)	リン酸質 (kg/10a)	
黒ボク土	120～160	60～120	1.0～1.5
灰色低地土	60～100	40～100	1.0～1.5
グライ土	80～100	40～100	1.0～1.2
黒泥・泥炭土	120～160	60～120	0.8～1.0

**令和4年度水稻乾田直播栽培総合検討会のご案内**

☞ 令和4年産の振り返りと令和5年産のポイントについて

- ・日時：令和5年1月19日（木） 13:30～15:30
- ・場所：せんだい農業園芸センター1階 研修室1,2  
(住所：仙台市若林区荒井切新田13-1)

※関心のある方は、当普及センターまでご連絡ください。（担当：佐藤）

【農作業安全】トラクターを運転するときはシートベルトを必ず着用しましょう！